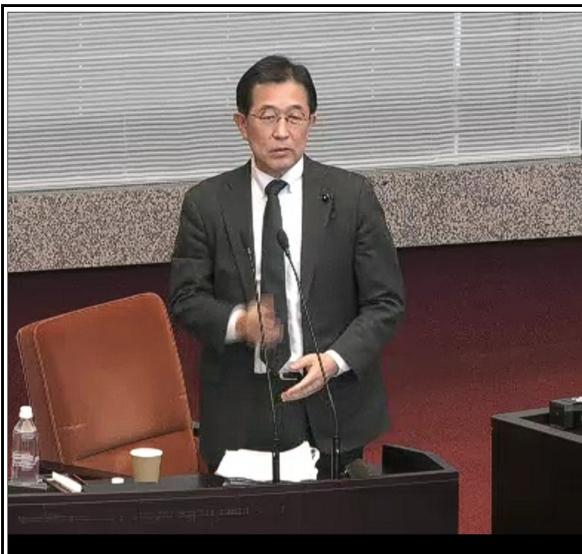




県議会参考人招致

内閣府
資源エネルギー庁
原子力規制庁

疑問に何も答えず幕引き図る

3月14日、県議会は、経済産業省資源エネルギー庁の村瀬佳史長官ら政府関係者を参考人招致し、質疑を行いました。私も登壇して質疑しました。以下、ご報告します。

避難所の放射線防護

馬場 国は、今後指定避難所について放射線防護対策を進めるとのことだが、柏崎市内で指定避難所数は200を超える。全ての避難所対策を進めるのか。**福島健康内閣府審議官** どういった優先度で、こういった地域の

馬場ひでゆきの活動日誌

No.57

施設から設備を進めるのかを含め、来年度以降調査を進めたい。**馬場** 地元は、再稼働で同意を迫られている状況だ。どの程度進めるのか、現在の時点ではつきり言えないのか？

福島 来年度できるだけ早くロードマップという形で県とともに整備の方向性を示していきたい。

屋内退避した場合の被ばく量

馬場 国が作成する「緊急時対応」計画によれば、原発事故により1週間の屋内退避を余儀なくされた場合、最悪、1週間で84ミリシーベルトになり、かなりの被ばく量になるのではないのか。

大島俊之原子力規制庁原子力規制部長 建物による遮蔽効果もあるので、被爆が100ミリシーベルトを超えないと考えている。**馬場** 建物があったとしても、木造では通過率が45%、コンクリートでも25%と言われている。すよね？すごい放射線量を空間で含んでいけば、仮に建物の中にいても被爆するのではないのか。

大島 もちろん、通過するものもあるが、短半減期核種というのもあり、線量率が下がってくるのがあります。

再稼働で電気料金が安くなるのか？

馬場 再エネ導入に伴うコスト、福島原発事故の対策費用が嵩んでいる。しかも、近年、原材料価格が高騰している。そして、電気料金は総括原価方式といって、すべての費用を電気料金の原価に含めることができる仕組みになっている。ホントに電気料金は安くなるのか？**村瀬佳史資源エネルギー庁長官** 原子力発電所が7機動いてい



3月27日は住民団体が県民投票条例案の本請求。県議会は住民の声も聞け。

4月16日～18日
臨時議会

一緒に視聴しましょう！

16日(水) 代表質問 13:00～17:00

17日(木) 一般質問 10:00～17:00

★一番最後に**馬場**登壇予定！

18日(金) 討論・採決 10:00～13:00

注：上記時間帯はあくまでも予定です

会場は当事務所（本町3丁目3-3ダイアパレス 高田式番館2F）です。ご都合のつく時間帯だけでも是非お越しください。

（質問を終えて）
私の質疑では、原発再稼働の問題点を指摘できたと思います。しかし、相手の回答に対して、さらに深く具体的な事実を突きつけて質問、検証していく作業が不十分でした。引き続き頑張ります。

る関西エリア、4機動いている九州エリアの電気料金は東日本と比べて2、3割安くなっている。さまざまなコストを加えても、再エネと遜色のない結果が出ている。

コーシ Break

「人間ドック」
2月議会も終わり、少しだけ余裕ができたので、人間ドックに行ってきました。この10年来、同じ病院の健康管理室に毎年1回この時期に通っています。毎回同じスタッフで、私の体の特徴を理解してくれていて助かります。今回は、ある数値で改善がみられ、「頑張りましたね!」と私と一緒に喜んでくださいました。甘い物を食べなかったのが功を奏したのでしょうか。でも、まだ体重過多なので、「カラダ・リメイクノート」を渡されました。来年は「減量しましたね」と言われるように頑張ります。





集会は、新潟県内全域から300名の方々が集まりました。壇上には、署名簿が入ったたぐさんの箱が山積みされました。署名数は14万3千余。会場は、たくさんの方々の署名を集めたという達成感とこれからの闘いに向かう強い決意とで熱気を帯びた温かい空気に満ちていました。

最初に「県民投票で決める会」の水内基成弁護士が、「署名活動に取り組んでくれたすべての皆さんに心から感謝申し上げます」とあいさつされました。

次に、来賓として招かれた重川隆廣県議会議員(リベラル新潟)と馬場があいさつ。

私は、「重大事故を起こすかもしれない原発を再稼働させる

かどうかという話なのだから、原発を立地する地域の住民の声を聞けというのは県民の当然の権利です。条例案の実現に向けてともに頑張らしましょう」と激励しました。

その後、各地の代表が次々に登壇しました。北は村上市から南は津南町まで、新潟県は広いなあと今更ながら実感しました。

最後に刈羽村の武本さんが登壇。柏崎でずっと原発に反対してきて、巻の住民投票、刈羽村でプルサーマルの是非を問う住民投票いろいろあったが、新潟県の全域で県民投票実現の運動が起こるなんて、反対運動を始めた頃には考えられなかったと感慨深く話されました。

「柏崎刈羽原発再稼働の是非を問う県民投票条例」の制定を求める



14万3千余筆の署名提出

本請求集会

3/27



発行責任者：馬場ひでゆき事務所
住所 新潟県上越市本町3丁目3番3号
ダイヤパレス高田武番館2階
電話 025-546-7110
ファックス 025-546-7666
メール kengi-babahideyuki@wind.ocn.ne.jp

『馬場ひでゆき活動報告2025春号vol.7』発行・配布しました!



3月末に上越市内全域(一部の地域やマンションを除く)に配布しました。早いもので今回で7号目となります。橋爪市議が描かれるイラストも好評で、内容もわかりやすいと評判です。

その後、会場で記念撮影をして、参加者が署名簿の入った箱を持って、県庁まで行進。水内さんから請求人代表が署名簿すべての提出をしました(本号表面の写真参照)。いい集会でした。

3月15日～3月28日

- 3月16日 「県民が決める原発再稼働の是非」県議とともに考える県民投票の意義「シンポジウム」パネリストとして参加(市民プラザ)
- 19日 県議会・常任委員会
- 21日 県議会・本会議(採決) 反対討論で登壇
- 26日 上越地域医療構想調整会議(上越医師会館)住民への会議の通知は僅か二日前。
- 27日 「柏崎刈羽原発再稼働の是非を問う県民投票条例」の制定を求める14万3千筆の署名提出本請求集会(新潟市自治会館、上段の写真)